

平成29年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	32	学校名	吉野高等学校
----	----	-----	--------

1. 取組名 筏流しイベント

2. 活動内容

平成29年12月9日(土)、吉野高校生と地元地域の住民が協働して筏(いかだ)を作製し、吉野川に流した。吉野川は、かつて「清流・よしのがわ」と呼ばれ、吉野川で獲れたアユは、“サクラアユ”と呼ばれ重宝された。しかしながら、上流にダムができ、また河川汚染の影響を受け、年々アユの漁獲量が激減し、一時、吉野高校付近でアユの竿を立てる人影が消えたこともあった。ところが、近年、地元地域の方々の努力もありアユが戻ってきたと言われている。実際、往年の景観には遠く及ばないが、アユ竿が立つ姿が多く見られ吉野川が蘇りつつある。

そこで、吉野高校生と地元地域の住民が、今後も継続して吉野川の環境浄化、保全を願い昨年度に引き続き筏を作製する「吉野川筏流しイベント」を実施した。当日は、地元の小・中学校にも声をかけ、地元の宝“よしのがわ”を再認識するひと時とした。吉野高校は、主に吉野スギ丸太材の買い付け、運搬、そして当日の筏作製の中心的な役割を果たした。

生徒の感想①・・・木材の量を多くして浮力をもう少し付けた方が安定しそうなので来年は改善したい。

②・・・他の活動でも小さい子どもに対して木材の良さ知らせる活動をしています。昔の木材がどのように運ばれたことを知ればもっと親しみが湧くと思います。来年度は子どもたちがいっぱい参加するようにしたい。



3. 成果と課題

昨年度が12月10日(土)の実施で今年度も同時期になった。当日は、約30名の参加があったものの、小・中学生の参加が全くなく、実施時期の検討と実施までの情宣に課題を残す結果となった。

4. 次年度に向けて(担当者の感想を含む)

来年度も実施を予定しており、9～10月の実施に向けて準備の段階で地元小中学校との連携を図る予定である。